

R8.3.25 曾我

(基本的には小規模だとできやすい)

1 小規模校だから、よりできること (最近の学校生活より)

(1) 手作りの卒業式→ 一人ひとりが認められる場

卒業生一人ひとりをより温かく見送ることができた。
卒業生の想い、証書授与で言葉、式辞を具体的に。

(2) 児童会企画「全校で一つになっての遊び」→ 全校一つに

新児童会が全校一斉で遊びを企画・運営していく。
第1回：3月13日(金)2校時に実施。「逃走中」

(3) 竜東学園内での新たな学び→ 互いの学びの成果を還元

- ・ 4・5年生が、興味を持った縄文時代の古墳や化石について導入。次年度「みらい創造科」につながる学び。上久堅小4年生が地域学習で得た学び(北田遺跡)を、直接教わって、互いの学習を深める機会とする。
- ・ 竜東中3年生がふるさと学習(探究の学び)「農家民泊」で得たことを、小学生へ広める。また、中学生が育てた苗を母校に届け、花壇づくりの心を伝える。(花育)



その子の良さを認める言葉を添える

竜東中卒業式 授与後に感謝の一言を



新児童会長がやり方やルール説明



「5・6年生のハンターが来た!」全校で盛り上がる



北田遺跡の前で、上久堅小5年生が説明 真剣に学ぶ4・5年生!



千代小出身の3年生 Rさんと2年生 Aさんが、登校前に小学校へ。中学校の伝統である「花壇づくり」を説明。花を活かした学校づくり・地域づくりをしようと呼びかけを!



「民泊パンフ」探究の学びとなる「ふるさと子ども夢学校」の資料として活用!



中学校より送られたパンジーは、核教室で大切に育ててきた。卒業式会場を彩る!

2 実際の子どもの想いは？

(1) 6年生(卒業生)児童の想い ※3月12日(木)2校時に6年生一人ずつ話を聞く。

【千代小学校(全校34名)でよかったか？なぜそう思うのか？】

Aさん…少人数だから、1年生から全員の名前を覚え、仲良くなることができた。全校で一つに

(男) なれることがよかった。全校で一緒に遊んだり、今年は特に全校で飯田りんごんへチャレンジできたこと。陸上や相撲の大会でも、いろいろな先生に応援してもらえた。

Bさん…自然豊なところ。少人数だから、全校のみんなが仲良くなれた。全校が一つのクラスの

(男) ようになれるところ。ぼくが、児童会長として感じたことは、千代小は人数が少ないので、全員がやらないと児童会活動ができないので、みんながんばってくれた。引継ぎ後に代表・放送委員会になった2年生のMさんが初めて昼の放送のアナウンスをした時、自然と拍手が出た。そういうところがいい。

Cさん…人数が少ないので、より先生たちに見てもらうことができたところ。いろいろな先生に

(男) 教えてもらったし(音楽：教頭、体育：4・5年担任、家庭科1年担任、外国語2年担任)、たくさんの先生に認めてもらえるから。活躍の場面がたくさんあるから。みんなと交流できて、全校仲が良い。

Dさん…友達と仲良くなれたから。お掃除がよくできるようになったし、字が上手になったか

(男) ら。下級生と仲良く遊べてこと。

Eさん…人数が少ないから全校のみんなを覚えることができたし、みんなと遊べた。

(男) 全校の人とあいさつができた。34人の人数だからこそできた。千栄小や上久堅小と一緒に授業もあって、違う学校の人とも仲良くなれたこと。授業で、自分で勉強ができて、授業に集中できたし、算数が得意になってよかった。成績も伸びた。国語はまだまだだけど。引越さなくてもよくなり、みんなと竜東中に行けるのでよかった。

Fさん…学校の周りに自然がいっぱいだから。水もおいしいから。人が優しいから。

(女) 全校のみんなや先生や地域の人との関わりが多いところ。いろんな先生が応援してくれたり、支えてくれた。たくさんの人と仲良くなれた。下級生がたくさん話に来てくれた。全校みんなが一つのところ。勉強と友達とのおしゃべりでメリハリがあること。

(2) 複式学級(4・5年生7名)児童の想い(担任からの聞き取り)

・4・5年が一緒に楽しいし、4・5年が別々でもどちらでも楽しいと思う。

(担任の先生の解釈：複式学級に対するマイナスイメージは持っていない)

・教科によって5・6年や3・4年で一緒になって勉強しているのもいいと思う。

6年生とも一緒に勉強できていい。(音楽・図工・外国語・道徳・総合：3・4と5・6の連学年)

・体育を他の学年と合同でやっているの、とても楽しい。いろいろ気を配れる。

・算数は学年ごとわかれて、M先生に教えてもらっているのいい。(5年生)

3 実際の保護者の想い(別紙資料1「学校評価のまとめ資料」)

4 竜東学園構想のこの1年 小規模校の利点を活かした取組(別紙資料2・3・4)

5 小規模校の教育活動・学校運営の限界

①全校で1～3学級(複式学級)全児童が10名以下の場合。

～以下、②～⑤は、担任以外のサポートなし 他校との交流・合同授業なしの場合～

②複式学級で、それぞれの学年1名だけの場合。

③1・2年生の複式学級がある場合。

④複式学級が2つもしくは3つある場合

⑤を学校・複式学級の男女バランスに大きな偏りがある場合

(6年間通して男子1名もしくは女子1名) ※⑤は本来よくない考えと思うが、実感より

☆学校評価アンケートでは、多くの保護者の皆様から貴重なご意見をいただきました。(昨年度 13 件から 29 件へ増加) 教職員の励みとなる温かいお言葉も数多く寄せられ、大変嬉しく、心強く感じております。また、次年度に向けた建設的なご提案もいただきましたので、今後の学校づくりに真摯に活かしてまいります。

◇判断された理由を自由にお書きください。(14 件の回答)

- 人数が小さい学校は、小さいなりの良さがあると思います。それは、どこの学年にどんな人がいる、それはどういう人だ、というのがしっかり分かることだと思います。人となりが分かるから、縦割りでも上級生に自然に信頼感が持てるし、年下にも優しい関わりが出来ると思います。学年の人数が少ない分、縦割りで 30 数名と関わりが出来るし、最近は他校との交流も持っているので、とてもいいと思います。
- 同学年の人数は少ないですが、異学年との授業や交流も多く、刺激し合える環境だと思うので、もう少し苦手な事にも積極的に前向きに取り組んでくれたらと思います。
- 友達との関係も、学習や行事にしても、楽しく一生懸命に、充実した生活がおくれています。
- 体調を崩す以外は、毎日学校に通えているから。
- 家庭学習を自らやれるようになった事、またそれが終わるまで集中してできるようになった事、この 1 年で大きく変わりました。
- 学校から帰ってくるとその日どんな事をしたか嬉しそうに毎日話してくれます。その中で異学年の子や地域の方の名前もたくさん出たり、こんな事ができるようになったと授業や行事に前向きに取り組んでいる姿が見られるようになってきました。
- 地域の方たちとの交流は子どもたちも楽しみにしているようです。
- 入学してから環境が変わり慣れない事だらけでしたが他学年のお友達との関わりで学校生活も楽しんで行けるようになった。
- お友達の事が大好きで、家でも毎日のように会話の中でお友達の名前が出てきます。また、千栄小や上久堅小との交流も毎回楽しみにしています。
- 行事の時は毎回緊張もしていますが、一生懸命やっているのがすごく伝わってきます。
- 学校一年目と言うこともあり、慣れないことも親子共にありますが、子供や行事を見ていると、本当に上の学年の子の関わりが助けになっていて、励まされていますし、いいお手本となっていて嬉しい気持ちになります。地域の方との活動に関しては私があまり把握できてないことも多く、どのようにされているのかまた知ってみたいとも思いますし、何かできることがあればお手伝いしたいなとも思います。
- 異学年での関わりがあるので、「何年生ではこんなことをするんだ」と楽しみにしています。自分の気持ちや考え方を丁寧に相手に伝えられるようになってほしいです。また、車での送迎を当たり前と思わない「あいさつ」を身に付けてほしいです。乗り降りの際はもちろん、横断時止まってくれた車へのお礼等、相手に伝わるように話してほしいです。→承知しました。人として大切なことです。事あるごとに子どもたちと振り返ってまいりたいと思います。
- 我が子は自分から宿題ができないので、親子の課題になっています。先生や学校はよくやってくれていると思います。→3学期始め竜東中の理央さんから「宿題が大事!」と助言を受けました。
- とにかく学校に行くのを楽しみにしているから。千代っ子応援団がどんなものかわかっていないです。→確かに改まって説明する機会がありませんでした。第1回参観日にて説明いたします。

◇ 本校の教育活動全般、学級での生活や家庭教育、PTA活動について
感じるがありましたら、お書きください。(15 件の回答)

- 複式クラスですが、数年前まではそのクラスの問題という雰囲気があったのですが、最近は色々なクラスの先生も関わって下さるので、学校全体の問題として見てくれているのがありがたいです。
 - 複式学級のよさが生かされていると最近感じています。
 - 少人数ならではの授業スタイルや、学年を越えた活動、たくさんの地域の方との交流など子どもたちにとってすごく良い環境の中で学校生活を送れているなと思います。また、学校の前を通ると、夜遅くや休みの日などにも職員室や教室の電気が付いているのを見かけたり、先生方とお話をしたり学級通信を読ませて頂く中で、子どもたちが毎日楽しく安全に学校へ通えるのは先生方のおかげだと本当に感謝しています。ありがとうございます。
 - 学年があがるにつれて、引っ張る力、まとめようとする力、呼びかける力など身に付いていると感じています。それは、学校生活や学校行事を通じてひとりひとりに役割を頂いて役割をつとめる事で身に付いているのだと思います。ひとりひとりを輝かせるご指導をいつもありがとうございます。
 - この1年で特に、自ら進んで学習する姿がよく見られるようになりました。またちよとした事でも「ありがとう」と感謝してくれるようになりました。これは担任の先生のきめ細やかなご指導のお陰です。誠にありがとうございます。来年も「引続き」よろしく願いいたします。
 - ちょうど150周年や竜東学園のこともあり、学校一年目だけとても濃い一年を過ごしてありがたい気持ちです。ちょうど竜東学園の説明会の機会に、お互いの学校でどのような学習のやり方をしているなどの実際の様子聞いてよかったなあと思います。また、お便りなどで学校の様子を知れることもいつも楽しみにしています。大変かと思いますが、お家ではわからないような情報提供がありがたいので、またよろしくお願いします。
 - 先生達には感謝しています。子供達のことをよく考えて、一致団結して子供達の成長を見守ってくれていると実感しています。子供達が楽しく学校に通えるということは、先生達・学校の雰囲気が良いという証明になると思います。
 - 学校の活動以外にも、習い事などで頑張ったことを褒めてもらえたり、大会に応援に来てくれたり、子どもたちもとても喜んでいて励みになっていると思います。
 - あたたかい先生方や地域の方々に見守られて伸び伸び、生き生きと小学生生活を過ごせている様子から、毎日安心して気持ち良く送り出せています。ありがとうございます。
 - 人形劇などを通して、表現力が、身についたと思います。
 - 「山河に学ぶ」で、先の予定を入れてくれてあるので、それを見て参考にしています。助かります。
 - 読み聞かせか何かお手伝いできたらと思いますが、自分の仕事の休みの日と学校の予定が合わないそうですみません。
- 【次のように建設的なご意見もいただきました。次年度、改善していきます。ありがとうございます。】
- 運動会の片付けなど、打ち合わせもなかったので、何をしたいのかわからなかったです。ただ話してるだけなら帰ってもよいと思います。→その通りですね。事前の連絡を丁寧に行いたいと思います。
 - 学校の行事に保護者が参加する機会が多いのは大歓迎ですが、親は労働者なので休み希望を出さないと休めません。親が参加した方が盛り上がるイベントなどは、2か月前に通達してくれれば休むことが出来ます。よろしく願いいたします!→**早め早めに学校の予定をお知らせしていきます。**
 - PTAは家庭数も少なくなってきていて、ひとり親家庭だったり役員が重なったりなどで役員にならなければいけないのは仕方ないのですが、やはり負担が大きい方もいると思う。みんなが役員で平等にできたらいいなと思います。→**今後のPTA活動の在り方を皆さんで考えていきたいです。**
基本は、本年度の小澤PTA会長さんより語られた「やれる人がやれる時にやれるだけ」と考えます。

【より良い教育環境を求めて竜東学園構想へ】

R7.12.18 学園長曾我

本年度より、飯田市では「子どもたちの豊かな学びの場」を目指して、飯田学園構想（小中一貫教育）が始まりました。（資料1）この構想を実現していく上での土台は、飯田市が平成23年度から地道に取り組んできた「小中連携・一貫教育」の成果にあります。飯田学園構想とは、より確かで、実効性を高めることのできる「学びの環境」を、学園ごとの特色も活かし、創っていくことです。

この方針に基づいて考えると、一番の目的は、この竜東地区の小中学校は、現状でも素晴らしい学校・子どもたちですが、竜東学園構想にて、さらに子どもたちの将来につながる生きる力を身につけていくことができる学園を地域の皆さんと共に創っていくということです。もちろん、少子化への対応も考えている訳ですが、人数が少なくなるから学園にするというマイナス的な発想ではなく、学園の可能性を信じての前向きな発想であることをご理解いただくと幸いです。

【竜東学園構想の現状 校名の他に何が変わってきているの？】

◇竜東学園の教職員が仲良くなるために！

第一回竜東学園小中一貫推進会議（竜東学園職員会議）では、前述した「めざす子どもの姿」や学園で共通する学び方をグループで意見交換しました。しかし、一番の目的は教職員が仲良くなる会にしたいという願いで、ニュースポーツ「モルック」を楽しみながら親睦を深めました。先生方の普段以上の笑顔が印象的でした。→日常的に3小学校学年会を実施。



4校の教職員が混じって、和気あいあい！

◇竜東学園3校合同修学旅行・合同社会見学 仲間の輪を広げました！

上久堅小・千栄小・千代小の6学年が6月4・5日に3校合同修学旅行を実施しました。当日に至るまでに、計6回オンライン合同授業（打合わせ）を行いました。当日は、修学旅行の楽しさに加え、3校の仲間との交流と充実感2倍の2日間となりました。竜東学園3小学校合同行事は、5学年の臨海学習、4年生と3年生の社会見学も同様に行っています。仲間の幅や価値観を広げる上で、大きな成果を得ています。



6年生 東京方面 修学旅行へ



5年生 愛知方面社会見学



4年生 妙琴浄水場などへ



3年生 飯田警察署などへ

◇竜東学園のつながりの日常化へ向けて！

学校行事にて子どもたちのつながりを深めることはもちろん価値あることです。しかし、竜東学園構想においては、共に学び合える機会の日常化を考え実行しています。

〈1・2年生 3校合同授業にて、新しい仲間と共に、考えを広めました！〉

竜東学園3小学校合同オンライン道徳授業

(2学年だより「ひまわり」より)



上久堅小学校と千栄小学校で、オンライン交流授業を行いました。授業は、道徳「しょうかいしよう」という学習で、それぞれの学校を紹介しました。同じ名前の教室でも学校ごとに広さが違うこと、学校は違っても同じところがあることを知れました。それぞれの発表を聞き、感想を言ったり質問をしたりもしました。「千代小学校の畑はすごく広いですね。」「千代小学校の理科室には、ぼくの学校にはないものもあって、いいなあと思いました。」などの感想をもらい、自分たちの小学校のいいところを再発見できたのではないかと思います。道徳の学習は、たくさんの考えや価値観に触れることが大切です。少人数だとなかなかそのような機会を作ることが難しいのですが、オンライン授業を活用すれば、他の学校の子の意見も聞けるため、よい勉強になりそうです。



竜東学園3小学校交流会・合同授業

(1学年だより「SUNさん」より)

金曜日に上久堅小学校で上久堅小学校・千栄小学校・千代小学校の1・2年生の三校交流会がありました。始めに、1年生の教室で国語の復習をしました。ひらがなビンゴと言葉集めゲームをしました。6つの班に分かれて3～4人グループで協力して行いました。

その後、給食を食べて、掃除をして、1・2年生一緒にゲームをしました。自己紹介・フラフープ鬼ごっこ・しっぽとりをしました。みんな汗をかきながら走っていました。楽しい交流会になりました。



日常的な3校の合同授業にて、学びの質が向上に繋がっています。そして、切磋琢磨にて、学ぶ意欲も高まっています！

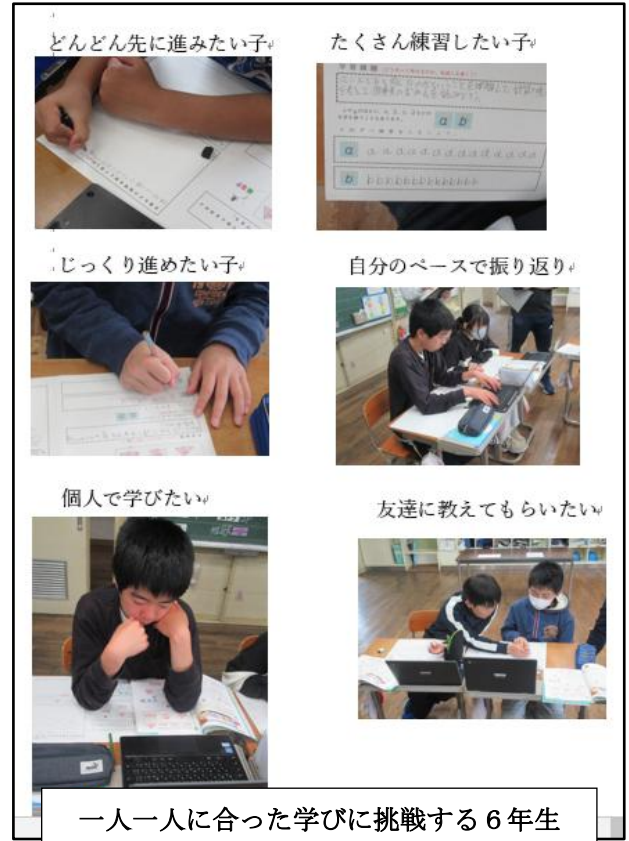
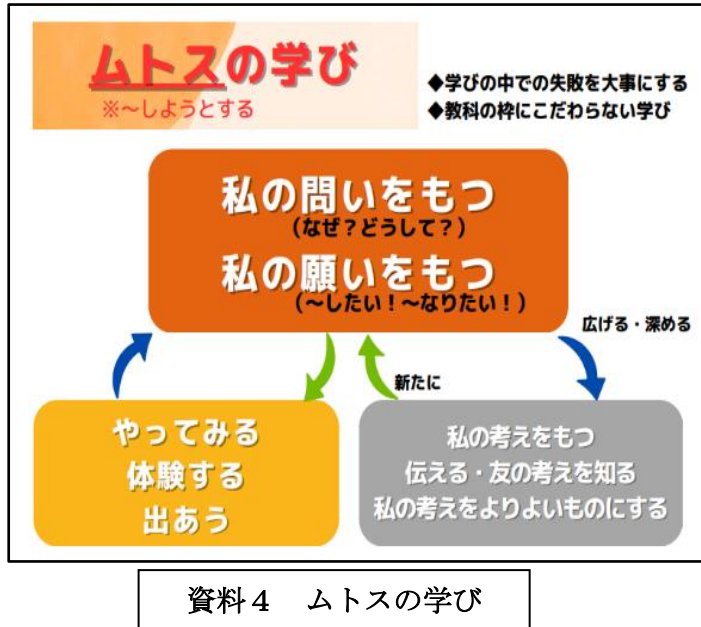
◇小中での教員の乗り入れ 竜東中音楽教諭による授業

音楽会前に、竜東中学校へ本年度より赴任した音楽専科の葎本直樹教諭による、小学校での音楽授業が行われました。竜東学園の3校小学校には、他校に配置されているような音楽専科教員はおりません。全てのクラスを担当や教頭が担当して授業を進めております。今後も日常的に葎本先生が授業に来てくださることは、子どもにとっても担任にとっても大きな財産となります。さらに、竜東学園の保小中を、音楽でもつないでいくことを考えています。



◇竜東学園における授業 新しい当たり前の授業へ！

授業の基本を「ムトスの学び」（資料）とした上で、一斉指導・一斉共同から脱却して、頭がフル回転できる「一人一人に合った学び」のある授業をめざすことを、構想の一番の柱として共通理解し、一年間新しい当たり前の授業にチャレンジしています。8月27日（水）千代小学校で行われた第2回竜東学園職員研修会にて、実際の授業を参観していただき共有を図ることができました。日常の授業に挑戦していくことを決意しました。



【竜東学園構想への期待

～わくわくする学園へ～

6月20日（金）150周年記念式典の一環で、千栄小・千代小合同音楽会が「心を一つに 笑顔で未来に向かっていこう！」をテーマに千栄小学校体育館にて実施されました。子どもたちから出た「千代・千栄の素晴らしさ」の言葉や想いを結び合わせた歌詞に、千栄小の川元真治先生が作曲をした「千代の風 千栄の空」が会場に響きました。保護者はもちろん、来校された多くの地域の皆さまに大きな感動を与えました。そして、11月に行われた郡市連合音楽会にて、千代小・千栄小合同で出演して、この「千代の風 千栄の空」を披露しました。



千栄っ子

千栄小学校 松澤 美佳

学び方はそれぞれ 自分に合ったやり方で そして探究へ

今年度本校では、すべて一斉授業というスタイルから脱却し、

- ① 複式の学びとして見守り型授業（子どもたちが進める、協働的な学び）
- ② 自由な学びをめざし、単元内自由進度学習（自分で学ぶ、個別最適な学び）

にチャレンジしています。

廊下で、別室で、一人で、友だちとなど、学び方も進度も自分のやり方で、自分のペースで学習していきます。



いろいろなスタイルで

6年生 千代小に行って 合同授業

2年生 友だちと 学び合い



「学び」と「生活」を結びつけながら「学ぶことの楽しさ」を感じられる授業に
 教師による働きかけが強すぎる→ 指示待ち 一斉に、同じに動く 主体的とはいえない
 教師からの働きかけが弱すぎる→ 表面的な主体性 勝手 学び合いはできている？

↓

そこで、「自ら学びに向かう力を育てたい」子どもたち主体の授業にしたい
 一斉授業は残し、2割を自由進度学習へ

その名も 千栄っ子チャレンジ「ちはチャレ」

この時間は子ども自身で学ぶ授業へ… 廊下で学ぶ子 タブレットで調べる子 教え合う子
 先生と など学び方は様々 自分のペースで学ぶことが楽しい

そのほかに、複式・少人数の良さとして個別指導の充実 異年齢での学習・活動があります

しかし・・・学年一人では同年齢の友だちとの学び合いや活動ができにくいのが現実です。

そこで千代小との合同授業・オンライン授業を昨年からしています。

「いつも一人なのでたくさんのお友だちと勉強できて楽しかった」

「3年生の教室での給食が楽しみ たくさん話したい」

とMさんの感想です。

上久堅小との三校合同授業も行っています。

今後、児童数減少で学年1人となっていきます。仲間の輪を広げてワクワクした学園をさらにめざしていきたいです。



3年生 千代小と
オンライン



3. 4年生 千代小へ行って
一緒に勉強



学ぶ環境を
整えて



先生方もお茶を飲みながら
教材研究



かがやく

R7.10.11

上久堅小学校 増田 祐美

★本年度重点目標のひとつ“学び合おう”を大切に★

主体的に学び、共に考えることで、未来に活かせる生きる力を育む子どもたちを育てたい

少人数のよさを生かして
多様な考えにふれられる
異学年集団授業や他校との交流

対話的
主体的
深い学び

学びに関心を持ち、自分の考えを
他者(友だち・教師・地域・先人)と
関わりながら深め、認め合い、支え合う



小規模校・少人数のよさって…

困ることって…

- 子どもたちみんながお友だち
- 異学年で活動を仕組みやすい
- 先生たちに全員に自分のことを知ってもらえる
- 一人一人に活躍の場がある
- 教室・体育館など広々と使える
- 保護者・地域の方とのつながり

安心した環境で学べる

- 多様な考えに触れる機会が少ない
- 固定化、秩序化された人間関係
- 競争心や切磋琢磨する意識が少ない
- 高学年になると(特に6年生)、重要な役がいくつも回ってくる
- 中学校に行くときドキドキする(大人数になじめない)

- 行事など小回りが利き、柔軟な対応が可能
- 教師の目が一人一人に行き渡るきめ細やかな指導ができる
- 教職員の共通理解が図りやすく、一体となって行事等が運営できる

- 音楽や体育などの学習活動が制限されてしまうことがある
- 困っている子どもに手をかけすぎ→依存、指示待ち、自立できない子に
- 教職員一人一人の負担が大きい
学年運営、教科指導、その他の業務

少人数のメリット・デメリット それぞれですが…

42人の児童と14人の職員 で できることをやるしかありません

少人数だからこそ 少人数だって できる！を実践していきます

竜東学園で
めざしていく

一人ひとりに合った学び 学びの新しいスタイル 授業改善への取り組み

- 自ら学ぶ子どもたちに
- 自分に合ったやり方で
- 教師か教え込む授業ではなく

児童数の減少により
上久堅小も再来年、複式学級
となる(別紙参照)
2つの学年が同じ教室で学ぶ
1人の先生が2つの学年を教える

どうして?

複式学級 何が困るの?

- 教師が一方向的に教える授業は、
理解できていなくても進んでいく
- 黒板に書いてあることをノートに写す
ことで満足してしまう
- 自分で問いを持ち、課題解決にむけ
て自分で考えたり(主体的・探究的な
学び)、友と考えたり(協働的な学び)
することで、さまざまな力が身につく
- 子どもは一人ひとり違う 学びも違う

- 学年それぞれ教える内容、教科書も違う
⇒ 一斉授業ができない
(例 3年・4年の複式学級の場合)
- 先生が4年生と学習している間は、
3年生は先生と学習ができない
⇒ 3年生は何する? 遊んでいる?
- 45分の授業の半分の時間は、
先生がいなくても「自分で学習」する時間
先生がいなくても学べる自分になる

4年生 算数
(参観日の様子)

ひとりで学ぶ

先生と学ぶ

みんなと学ぶ



他の日の
学習の様子



4年生の算数の授業の様子を紹介しました。担任は「自分で課題に向き合う力」「わからないことを素直に伝える力」「友だちと一緒に考え、解決する力」が子どもたちに必要な力だと考え、授業や学級での活動を行っています。特に算数では、自分のペースに合わせ、子どもたちが「ひとりで」問題に取り組んだり、友だちと教え合ったり、先生に聞いたり、その時々で学びのスタイルを自分で決めていきます。押さえるべきところは全員で学んでからの学習で、個々の理解やつまづきに合わせて先生が支援しています。「わかったつもり」の学習ではなく、「自分でわかった」達成感や喜びを感じられる学習を目指していきます。